

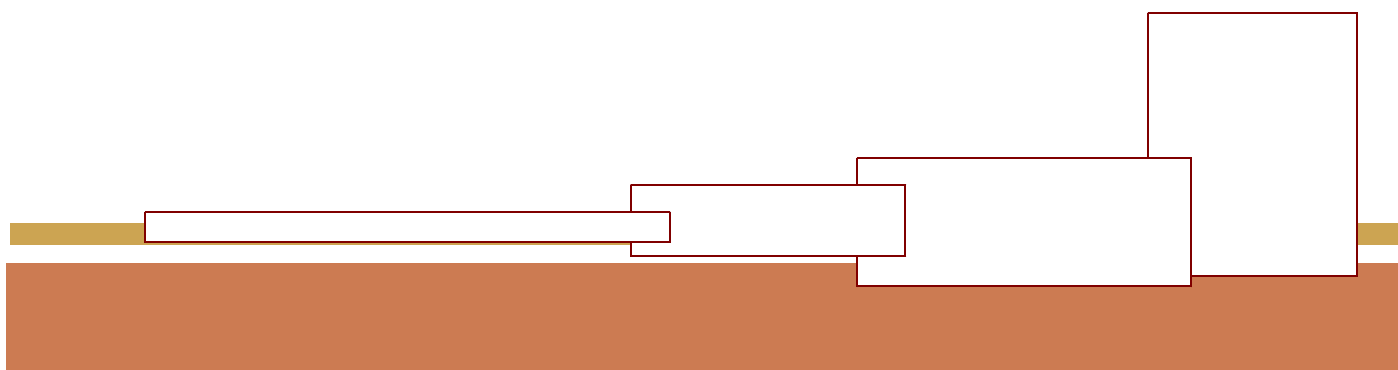
民間企業の視点から学校教育について考える

—「深い理解」,「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」を目指して—

群馬県総合教育センター
中堅教諭資質向上研修グループ協議
第8グループ協議
講演資料

2025年9月19日(金)
12:30~15:50
群馬県立総合教育センター

開倫塾
塾長 林 明夫
(開倫塾日本語学校理事長・校長)



Q 1：企業が求める人材は何ですか。学校教育に期待することは何ですか。

A：これからの時代にふさわしい人材です。

(1)まず第一に、これからの時代は「知識基盤社会」です。ですから、そこで求められるのは、「知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力」です。

(2)①「知識」とは、例えば、小学校・中学校・高校・大学・短期大学・専門学校・専修学校・大学院など「学校」で学ぶ全内容、全教科の知識です。

○学校で学ぶことはすべて役に立ちます。

○学校の教科書は、決して処分しないこと。

②「情報」とは、生成 AI や Chat-GTP やインターネットはじめ、文字や映像、データなど、様々な手段方法で得られる情報です。

③「技術」とは、ICTはじめ、ありとあらゆる分野で用いられる技術です。

④「相互作用的に用いる能力」とは、うまく組み合わせて使いこなす能力です。

(3)①そのためには、ものごとの「深い理解」、つまり、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）こと」が求められます。

②「深い理解」を得るためには、例えば、「学校の授業」についていえば、「予習」「授業」「復習」「定着」の大切さ（価値）を認識し、自分なりに意味付けし、自分から進んで行動、主体的に学ぶ力を身に着けること。

③「価値」「意味」「秩序」に基づき、自律的に行動すること。



Q 2：これからの社会の第二と、そこで求められる能力は何ですか。

A：(1)第二は、「グローバル社会」です。

①「グローバル社会」とは、「人・モノ・お金が国境を越え行き交う社会」です。

②「グローバル社会」で求められるのは「多様な集団で交流する能力」です。

(2)①「多様な集団」とは、「国や地域、歴史や文化、価値観やものの考え方、法律や制度、規範意識、慣習、社会のルール、生活様式などが異なる人々が構成メンバーとなる集団」です。

②「交流することができる」とは、「いっしょにすることができる」、「いっしょに活動（仕事や社会的活動、生活や行動を共にする）」

③「トラブルを起こさず、うまくやる、目的や目標を成し遂げることができる」です。

(3)①「コミュニケーションの手段」として「英語」の習得は欠かせません。

②日本人は、英語学習の際、徹底的な発音練習と暗唱をほとんどしていませんので、英語を話す力が極端に低いようです。

③また、英語の文章を読む量が少なすぎるために、英語の新聞が読めない、TV やラジオのニュースが聞き取れない。

④書き取り練習や作文練習をしない英語学習者が多いため、会合などでもメモが取れない、レポートが書けないことが多いようです。

⑤内容のあるディスカッションが英語で可能な日本人は少ないようです。

(4)①相手の発言をそのまま聞き取り理解し、その旨相手に伝える「エポケー（思考停止）」は、効果的です。

②「～さんは、～について、～とお考えなのですね」と「付加疑問文」で答え相手の言ったことを「承認」し「確認」。

③自分の価値判断を全く入れず、「傾聴」、相手を全面承認。



(5)それから、自分の意見や考えを述べる。

①その際大切なことは、自分自身や、家族、友人、自分の学ぶ学校、地域、所属する団体、日本について、初めから、欠点や問題点は、口にしないことです。



②「私は英語を話すことが得意でない」「この町には何もない」「日本には文化も歴史もない」などと、最初から話すと、本気にして、「そのような人と、交流したくない」と考えてしまうことが多いからです。

③自分自身の夢や希望、興味のあること、取り組みたいこと、長所を、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」自分の学校や住んでいる街、所属しているグループ、都道府県や日本の、歴史や伝統、素晴らしさを「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを目指す。

④そのために、自分自身のことを深く知る（省察）、自分の将来のことを考え他人に話せるまでに言語化、自分の母校や、住んでいる街、都道府県、日本の地理や歴史、文化、伝統など、少しずつでも学び、「深く理解」、「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ようにする。

(6)同時に、相手の国や地域の地理や歴史、産業、文化、伝統、学校制度や、教育制度、社会の仕組み、生活様式、ものの考え方、優れた取り組みなどに関心を持ち、学ぶ。言語にも関心を持ち、少しずつでも学ぶことが大切です。

(7)このようにして、相互理解、相互尊重、少しずつ「交流」が可能になります。

Q 3：これからの社会の第三と、そこで求められる能力は何ですか。

A：「課題山積社会」です。「課題山積社会」で求められる能力は、「自律的に活動する能力」です。

(1)「課題山積社会」とは何か。

①「現代」は、日本だけでなく、世界中で、今までに経験したことがないような様々な「歴史的な」、自然現象、社会現象、経済現象が次から次に発生し続けている社会です。

②たとえば、「低頻度巨大自然災害」「パンデミック」「ロシアのウクライナ侵攻、ハマスのイスラエル侵攻とイスラエルのガザ地区侵攻のような、局地戦争と、地政学と世界経済に及ぼす大影響」「世界は人口爆発、日本は超少子高齢化・超人手不足」です。

③文字通り、世界は、日本は、「課題山積社会」です。

(2)「課題山積社会」で求められるのは、「高い志」を持ち、それらの課題を、自分から進んで解決する「自律的に活動する能力」です。

(3)①「自律的に活動する能力」を身に着ける前提は、ものごとを正確に、論理的・分析的に読み解く力、「読解力」です。



②「読解力」を身に着けるのに役立つのは「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に慣れ親しみ、最大活用することです。

③「辞書」：意味の分からない語句があったら「気持ちが悪い」と思い、辞書を用いて調べる。

・辞書で調べたことは、ノートなどに書き写し、その場で覚える。

・文字は力、語彙数は力です。

・＜「辞書教育」を＞

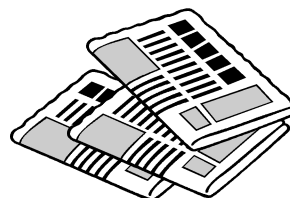
④「新聞」：新聞を、毎日、1面から舐めるように読み、世の中の出来事を知る。・そして、「自分で考える力」「批判的思考（クリティカル・シンキング）能力」を身に着ける。

・気になる記事は、ジャンル別のスクラップブックを。

・「新聞を読まずして、社会的課題の解決なし」。

・「新聞なくして、探求型学習なし」

・＜今こそ、「新聞教育（NIE）」を＞



- ⑤「読書」：「著者との時空を超える対話」をおこなう「本格的読書」で、
「思慮深さ」「省察力」「創造性」「表現力」を身に着ける。
- ・「各教科の学校教科書で紹介されている作品」は、「学校時代から少しずつ慣れ親しみ、一生かけて、繰り返し読んでほしい」という、教科書編集者からの「メッセージ」。
 - ・「読書のガイダンス集として、学校教科書を活用」。
 - ・気に入った語句や文章に出会ったら「書き抜き読書ノート」に書き写しを。
 - ・＜「読書教育」を＞
- ⑥「図書館」：「学校図書館」「公共図書館」「大学図書館」「私設図書館」に慣れ親しみ、「辞書」「新聞」「読書」と親しむ。
- ・図書館は「知の拠点」。
 - ・「大学図書館」は「大学での学問的中心」
 - ・「サードスペース（第三の居場所）」に。



Q 4：学校教育に期待することは何ですか。

- A：（１）第一は、高校卒業後大学、短期大学、専門学校、専修学校など、「高等教育機関」に進学する高校生が専門高校でも激増している現在、「高等教育機関」での教育や研究に耐えられる、高等学校卒業生としての、全教科の基礎学力、基礎的な能力を、高校時代にキチンと教育することです。
- （２）①第二は、大学などで求められる高校で学ぶべき基礎教科を、高校で学んでいない場合には、大学での、初年次教育や、リメディアル教育の対象になります。
- ②しかし、なかなか、大学入学後の「高校内容の学び直し」は大学では困難です。
- ③そこで、推薦入学などで進学する大学等が決定した後、高校３年生の３月３１日まで、不足する勉強を高校で指導し、大学等に送り込みをお願いしたい。
- （３）①高校での教育内容は、後期中等教育として最高レベルのものとして、全教科、高く評価されています。
- ②大学等でも、また、社会に出てからも、全教科の全内容は、全て役に立ちます。
- ③そこでお願いしたいのは、高校の勉強は、社会に出てからも役に立つので、「全教科の高校の学校教科書」や「資料集」「地図帳」「年表」「辞書」「授業ノート」等は、決して処分しないこと。折に触れ読み直し、「深い理解」「自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを、目指すよう、ご指導ください。
- 「高校教科書」「高校の授業ノート」を声を出して読み続けることは、「認知症対策（回帰療法）」としても、極めて役立ちます。
- （４）①各教科の「効果の上がる学習方法」を、折に触れご指導ください。
- ②全ての職業で、社会に出てからも学び続けなければならないことは、極めて多いからです。
- ③本は、最後まで読むこと。本は、一生かけて、何回も読むこと。新聞を、毎日読むこと、図書館には毎週行くことなど、是非、ご指導ください。
- （５）①母校は、卒業生にとり、人生の大切な一部分、DNAです。
- ②卒業生のメールアドレスをしっかりと管理し、公開されている学校行事を開催する際には、是非、教えてあげてください。
- ③卒業５０周年、卒業３０周年など、年度別に、入学式や、卒業式にご招待、終了後、お茶の会など開催していただければ、ありがたく存じます。



Q 5：企業の人材育成はどのように行っていますか。

A：(1)「経営理念」の活用

- ①「高い倫理」
- ②「高い学力」
- ③「高い国際理解」
- ④「自己学習能力の育成」
- これを自分なりに「活用」する。

(2)「経営情報の共有と活用」

- ①所属企業が現在同のような状況に置かれているのか、経営数値を社内で公開、見える化を図っています。これを自分なりに「活用」。
- ②問題の所在（何が問題か）、原因の推定（その本当の原因は何か）、ではどうしたらよいか（応急措置、システム・制度変更）
- ③成功事例の発見と、標準化、（ベストプラクティスのベンチマーキング、社内・同業他社・異業種のベストプラクティスのベンチマーキング）、
- ④PDCA、仮説・検証・評価。これらを、自分なりに「翻訳」、「活用」。



(3)「EMPOWERMENT（エンパワーメント）」

- ①能力強化…「人に力をつけさせること」、「自立させること」、「自己実現の促進」、「地位向上」
- ②権限移譲…権限付与
- 与えられた権限を、自分なりに「活用」。「自分から進んで活用する力」「主体的に活用する力」

(4)①「自己責任」

②「自助努力」

③「自分の未来は自分で切り開く」「Never Give Up」

(5)一人一人の塾生が「よく生きる」「多様な選択肢のある人生を歩むこと」「正常な社会の形成に貢献する（社会のお役に立つ）」ことができることを、まず第一に願う。

○以上が、人材育成のポイントです。

Q 6：学校、企業の役割について、

A：「高校生のキャリア支援教育の充実」をご提案します。

(1)企業経営者の出張授業の「受け入れ」と「提供」

○「群馬経済同友会の出張授業」を、年間行事予定に組み込み「ご活用」ください。

(2)普通科高校（大学受験が多い高校）でも、全生徒の「インターンシップ」の導入を。

(3)群馬県のよさ、素晴らしさについて、学校と企業が協力し、戦略を立て、全ての高校生・保護者・地域社会の皆様にお伝えし、超少子高齢化、超人手不足の時代を乗り越えてまいりましょう。群馬県の素晴らしさ、潜在可能性を「インターンシップ」で少しでも知る機会をお与えください。

○「幸福の青い鳥」は身近にいる。群馬県にたくさんいることを気付かせてください。

ご清聴、ありがとうございました。心から感謝いたします。

ご質問、ご意見、ご感想をお聞かせください。

